

# 国語科学習指導案

京都市立 修学院第二小学校

指導者 月野 健史

1.日時 平成20年6月19日(木)第2校時(9:45~10:30)

2.学年・組 第4学年ろ組 (男子10名 女子16名 計26名)

3.単元名 本と友達になろう

4.教材名 白いぼうし

## 5.単元の目標

- ・場面の情景を、叙述を基に想像しながら読んだり、自分の感想をまとめたりすることができるようにする。
- ・紹介したい部分とその理由をはっきりさせて、「おすすめカード」を作ることができるようにする。

## 6.単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度

- ・叙述に着目して、物語を楽しみながら読もうとしている。

書く能力

- ・必要な事柄を選択し、伝えたいことが明確になるように書いている。

読む能力

- ・情景や様子を叙述を基に想像しながら読み、一人一人の感じ方に違いのあることに気付いている。

言語についての知識・理解・技能

- ・こそあど言葉を理解している。

## 7.単元について

本単元は、全員で「白いぼうし」を読み、続いて自分で物語を探して読む。最後に、「おすすめの本」を紹介することを通して、シリーズ作品の面白さに気づき、子どもたちの読書生活が広がることをねらいとしている。

本教材は、タクシー運転手松井さんと、擬人化されたちょうの心の交流を軸に、客の紳士との会話、虫取りあみをかかえた男の子とその母親の様子など、人々の心温まるふれあいの様子が描かれた作品である。児童は、優れた情景描写をもとに、想像力を働かせながらその世界を読み味わうことができると考えられる。

物語に登場する「夏みかん」や「白いぼうし」「不思議な女の子」「ちょう」などの

イメージは、物語のテーマ（主題）である、自然や優しさを象徴している。また、「夏みかん」の色やにおいの描写からは、物語のさわやかなイメージを感じ取ることができる。「白いぼうし」は、都会という反自然から自然界へと抜ける通路の役割を果たし、「不思議な女の子」「ちょう」は非現実世界への案内人の役割を果たしている。登場人物の会話や行動、情景描写から想像を広げ、ファンタジーの世界を読み味わうことで、作品のおもしろさに浸ることができる。また、この作品は、「車のいろは空のいろ」というシリーズの一編であることから、シリーズものやファンタジーを始めとした様々な本との出会いへのきっかけとなって、読書への興味を促すことができる教材である。

この教材は、松井さんと紳士との会話、松井さんと白いぼうしとの出会い、松井さんと女の子との出会い、女の子がいなくなってちょうが飛んでいる野原、の4つの場面から構成されており、書き出しと結びは夏みかんのにおいて照応している。各場面には松井さんの善意あふれる行動や会話の中に、優しい人柄が表れている。そして、その優しさが「白いぼうし」「なみ木の緑」などの色彩表現や夏みかんの香り「日の光をそめつけたような」といった比喻表現などのさわやかさと重なり合い、子どもたちはイメージを豊かに読み進めることができる。

## 8. 児童について

略

## 9. 本時について

本時は、松井さんの言動から松井さんの人がらを読み取る学習をする。

まず第二場面（P54L2～P57L3）を三つのシーンに分け、それぞれのシーンでの松井さんの気持ちを考える。松井さんの言動をそれぞれシーンの状況と照らし合わせることで、松井さんのがらを物語の流れに即して考えやすくすることをねらう。

一つ目のシーンでは、「はっとした」松井さんがどういう気持ちでぼうしをつまみあげたかを確認する。二つ目のシーンでは、「ため息」や「かたをすぼめてつつ立っていた」松井さんの気持ちを考える。三つ目のシーンでは、夏みかんに白いぼうしをかぶせた松井さんの気持ちを考える。ここでは、「あの夏みかん」や「その夏みかん」に注目して指示語が何を指すかを考えることで、松井さんにとってとても大切な夏みかんをちょうの代わりにすることの重みに目を向けるようにしたい。

上記のように、松井さんがそれぞれの状況においてどのように考え、行動してきたかを順に確認していくことで、松井さんがどんな人がらかを考える手立てとする。

指示が通りにくい児童については、課題を明確にするために黒板にフラッシュカードをはり、導入でその時間の見通しを持たせるようなはたらきかけをしていきたい。そして、言葉や行動をフラッシュカードで掲示して、松井さんのがらが想像できるようにしていきたい。

発表の際、（略）配慮したい。そして、友だちの発言のよい点を認め合うようなあたたかい雰囲気での授業にしていきたいと考える。

## 10. 指導計画(全16時間)

時	学 習 活 動	留 意 点	評価の重点					評価の視点 (評価の方法)
			関	話	書	読	言	
1	<p>シリーズ作品に興味をもち、学習計画を立てる。</p> <p>・全文を読む。</p> <p>・自分の感想を書きまとめる。</p>	<p>・あらすじをしっかりとらえ、感想がもてるように何度か読むようにする。</p> <p>・教師の範読・役割を決めて読む</p> <p>・感想をつぶやきながら読む など</p> <p>・挿絵を手がかりにしながら、場面の様子をとらえるようにする。</p>						<p>・読み取った内容について自分なりに感想をまとめている。</p> <p>(感想文)</p>
2	<p>・感想を交流し、読み取りたい課題を出し合う。</p>	<p>・感じたことについて、思いを交流し合うことにより、読み深めていく視点をもてるようにする。</p> <p>・色やにおいを表す表現</p> <p>・情景を表す言葉</p> <p>・運転手の松井さんはどんな人か。</p> <p>・白いちょうの不思議</p> <p>・不思議な事件や出来事</p>						<p>・感想を積極的に交流している。</p> <p>(発表の様子)</p>

<p>3</p> <p>4 (本時)</p> <p>5</p> <p>6</p>	<p>「白いぼうし」を読み深める。</p> <p>・色やにおいに関する豊かな表現を味わいながら読む。</p> <p>・松井さんの人柄について想像する。</p> <p>・松井さんと女の子のやりとりを読み取る。</p> <p>・「よかったね。」「よかったよ。」を考える。</p> <p>・こそあど言葉の扱い方に気付く。</p>	<p>・自分の考えや思いの根拠を明らかにするために、教材文の情景描写を基に読み取るようにする。</p> <p>・色やにおいについての表現を抜き出し、その表現のよさについて考えるようにする。</p>					<p>・文中の言葉から松井さんの人柄や作品の雰囲気を想像している。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>・こそあど言葉を正しく使って書いている。</p> <p>(ノート)</p>
<p>7</p>	<p>・「白いぼうし」のおもしろさについて話し合う。</p>	<p>・感じたことを自由に交流し、それぞれにいろいろな感じ方があるのだということを感じられるようにする。</p> <p>・不思議な出来事について、聞いている人に分かるように話すようにする。</p>					<p>・自分の感想をまとめ、他人との感じ方に違いがあることに気付いている。</p> <p>(話し合い・ワークシート)</p>
<p>8</p>	<p>シリーズ作品を読み比べ、思ったことを話し合う。</p> <p>・「車のいろは空のいろ」シリーズの中から作品を選んで読み比べる。</p> <p>・読み比べて、思ったこと・分かったことを話し合う。</p>	<p>・シリーズ作品を読み、共通点・相違点をつかみ、シリーズ作品のおもしろさに気付けるようにする。</p> <p>・自分で読み、また、発表を聞く中で「車のいろは空のいろ」のいろいろな作品に触れることによって、シリーズ作品への興味を広げるきっかけとなるようにする。</p>					<p>・自分の感想をまとめ、他人との感じ方に違いがあることに気付いている。</p> <p>(話し合い・ワークシート)</p>

9 10	<p>図書館の利用の仕方を理解し、自分が読みたい本を探して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の図書室で本を探して読書をする。</li> <li>・図書室での本の探し方についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 P.64, 65「本は友達」巻末の「いろはにほへと」を用いて、絵本や短編集を紹介する。</li> <li>・教師のおすすめの本を紹介するようにする。</li> <li>・テーマを決めて読書をするようにする。</li> <li>・読みたい本がある時は、あらかじめ、書名と作者名を調べておくことも大切であることを確認するようにする。</li> <li>・他教科で本を探す時にも生かせるようにする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の探し方が分かり、いろいろな読み物の中から興味のある本を探して読んでいる。</li> </ul> <p>(読書の記録)</p>
11	<p>友達に薦めたい本を選んでカードを作り、作品を紹介する計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを書く目的を確認する。</li> <li>・教科書 P.67の作品例を読み、どの部分からその本を読みたくするか話し合う。</li> <li>・「読書発表会」の計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識、相手意識を明確にさせることによって、意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・カードにすることで、どんな点を工夫して本の紹介ができるか考えを出し合うようにする。</li> <li>・カードを使って、読んだ本の交流をする計画を立てるようにする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じた文章となるよう工夫しようとしている。</li> </ul> <p>(話し合い)</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介したい本を選び、カードの構想を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの作品の中から、特に心に残ったもの、みんなに紹介したいと思うものを選ぶようにする。</li> <li>・大切な事柄に気をつけて、カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらすじ</li> <li>・登場人物</li> <li>・好きな場面</li> <li>・本文の引用</li> </ul> </li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことを落とさずに、構成を工夫している</li> </ul> <p>(カード)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の思い など</li> <li>・カードを基に、伝えたいことが明確になるような文章構成にする。</li> </ul>					
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きを読み合い、友達の助言を基に、推敲する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と読み合い、意見を出し合う。</li> <li>・意見を参考にして、間違いを直し、もっとよい文章になるように推敲する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章のよいところを見つけたり、間違いなどを直したりしている。</li> <li>(カード)</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推敲した内容に従って清書し、カードを仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたいことが分かるように、見出しやレイアウトを考えて書くようにする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている。</li> <li>(カード)</li> </ul>
15	<p>読書発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめの本」カードを基に、おすすめの本を紹介し合う。</li> <li>・友達との交流で興味をもった本を決めて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者の進行で交流できるようにする。</li> <li>・評価カードを用いて、発表会のあとに交換し、それを基に自己評価し、活動を振り返るようにする。</li> <li>・普段あまり読んだことのない分野へも関心を広げられるようにする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章のよいところを見付けている。</li> <li>(相互評価カード)</li> <li>・読書の分野を広げて読もうとしている。</li> <li>(読書の記録)</li> </ul>
16	<p>みんなのカードをまとめて、「おすすめの本」カード集を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめの本」カード集の活用の仕方や、今後の読書生活について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードは一定期間掲示して興味の持続を図る。</li> <li>・夏休みの読書につながるように、日常生活の読書活動と学校図書館での読書指導との関連を図るようにする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめの本カード」集を作って、読書を広げようとしている。</li> <li>(話し合い)</li> </ul>

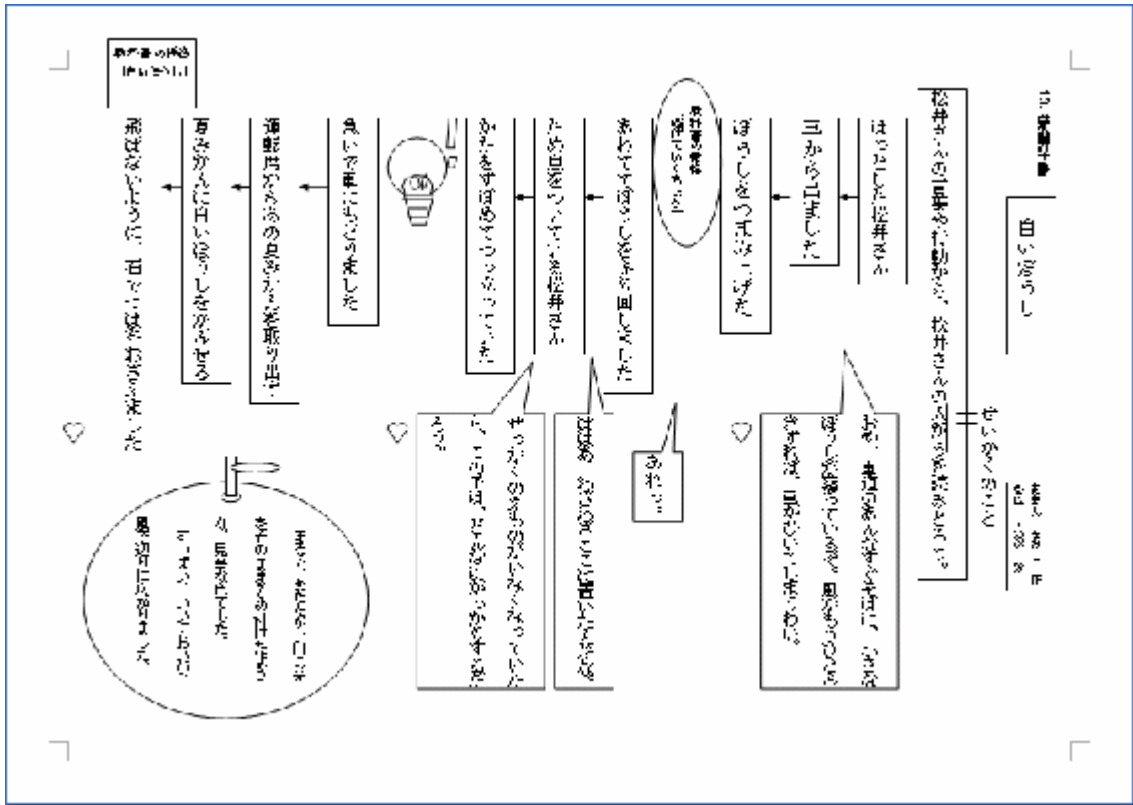
## 11. 本時の目標

松井さんの言葉や行動から松井さんの人柄を読みとる。

## 12. 本時の展開

学習活動	主な教師の発問( )と 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点	評価
<p>1. 学習場面を知り、音読する。</p> <p>2. 本時のめあてをつかむ。</p> <p>3. 松井さんの言葉や行動の叙述から気持ちや思いを考え、グループや全体の前で発表し合う。</p> <p>4. 松井さんの人がらを考え発表し合う。</p> <p>5. 本時のまとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>松井さんの言葉や行動から、松井さんの人がらを読み取ろう。</p> </div> <p><b>白いぼうしに気づいたときの松井さんの気持ちを考えましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何か落ちているぞ。</li> <li>・車に引かれたらかわいそうだからよけておいてあげよう。</li> </ul> <p><b>ため息をついたときの松井さんの気持ちを考えましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうを逃がしてしまったという気持ち。</li> <li>・せっかく男の子がつかまえていたのに、逃がしたので男の子に悪いなという気持ち。</li> </ul> <p><b>松井さんはどんな気持ちで夏みかんに白いぼうしをかぶせたのでしょう？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子が喜ぶだろう。</li> <li>・ちょうが夏みかんに代わって驚くだろうな。</li> <li>・いなかのおふくろが送ってくれた夏みかんにあげて、ちょうの代わりにしよう。</li> </ul> <p><b>松井さんはどんな人だと思えますか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な夏みかんに代わりになってしまうなんてやさしい人だと思う。</li> <li>・知らない人のために行動できる親切な人だと思う。</li> <li>・男の子のことをよく考えていて人の気持ちを考えられる人だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松井さんの気持ちがわかる言葉に線を引いて考えるようにする。</li> <li>・ワークシートの吹き出しに松井さんの気持ちを書くようにする。</li> <li>・松井さんの言葉や行動をフラッシュカードで掲示し松井さんの気持ちが想像しやすいようにする。</li> <li>・ちょうの挿絵からも情景を想像できるようにする。</li> <li>・グループで自分の意見を話して、友だちの考えのよさにも気づくようにする。</li> <li>・「あの夏みかん」「その夏みかん」に注目させて、松井さんにとっての夏みかんがどんなものだったかを考えるようにする。</li> <li>・白いぼうしの挿絵をはり、情景を想像できるようにする。</li> <li>・根拠を明らかにしてワークシートに書くようにする。</li> </ul>	<p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文中の言葉から松井さんの人柄や作品の雰囲気を読んでいる。</li> </ul> <p>(ワークシート)</p>

### 13、板書計画



### 14、評価補助簿 (略)